

【2024年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフみなみおおさか				
○保護者評価実施期間	2024年11月20日 ～2024年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	1	
○従業者評価実施期間	2025年1月15日 ～2025年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療ケア・重度心身障がい児を含めたイベントの企画	医療ケアや介助が必要な児童も一緒に利用しているため、全員が楽しめる場所や身障者トイレが完備されているかなど、事前にホームページや直接連絡をして確認を行ったうえでイベント立案を行っている。	経験をさせてあげたいことも含めて、子どもたち全員が「楽しかった」と喜んでもらえるように継続してイベント企画を行う。また、子どもたちや保護者様からも意見を聞かせていただき、イベント企画に反映していきたい。
2	近隣に公園がある	室内の活動スペースに限りがあるため、体を使って遊ぶときや活動時間に余裕があるときは公園に出かけて活動している。	1日の活動の中で利用している子どもたちに「公園に行きたい」かどうかの確認を取り、平日でも室内と戸外での活動の幅を増やしていきたい。
3	近隣に契約している畑が近い	公園遊びなど戸外で活動しているときに、季節ごとに野菜を育てている畑の様子を見に行くなどして子どもたちに自然と触れ合ってもらっている。	イベントの企画として、鑑賞だけではなく実際に自然や自分たちの食べる野菜がどのように育つのかを体験してもらえるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースと学習スペースの境界がない	活動スペースの一区画に学習机を配置して宿題を行ってもらっている。しかし、学習スペースのみを配置できる間取りではないため、集中したい時などに空間を仕切ることができない。	学習スペースを使用しているときに活動スペースの様子が見えないようにパーテーションやカーテンなどを活用して空間の間仕切りを行っていく必要がある。
2	地域交流の機会が少ない	多方面への送迎を行っているため、他の事業所との交流など時間の調整が難しくなっていることが考えられる。	ご兄弟でほかのデイサービスを利用している児童がいるため、保護者様に協力していただくなど交流の機会を設けていく必要がある。
3	室内の活動の制限	活動スペースに限りがあるため、児童が行いたいボール遊びやマット運動など体を使う事が難しい。	体を使って遊びたい際は、近隣にある公園に出かけて行っていただくなどする必要がある。